救急隊記載用

別紙1

消防本部名　　救急隊名（救急隊長名）　　（　　）

傷病者の観察及び搬送先選定シート（内因性疾患用）

入電～救急隊出発

指令から救急隊に伝達する項目等

入電年月日	年　月　日	入電時間	AM・PM　：	搬送ID			
発生場所				年齢（生年月日）	歳（M・T・S・H　年　月　日）	性別	□男　□女
主訴							

※指令から伝達された「主訴」により、病気の場合は「内因性疾患用」を使用すること

現場到着 ～ 傷病者の観察 ～ 搬送先医療機関選定

1　特に緊急性が高く、一刻も早い搬送が必要な疾患をチェックし、搬送先医療機関を選定

心肺停止（CPA）

観察項目	判断基準					搬送先医療機関の区分（別表）
呼吸	□ 気道閉塞 □ 無呼吸 □ 死戦期呼吸	➡	□ 1項目以上該当	➡	□ 大人	□ CPA 1
				➡	□ 小児	□ CPA 2
頸動脈脈拍	□ 感知せず					
伝達事項	・目撃者：□あり □なし　・AED使用：□あり □なし　・バイスタンダー□あり □なし　・初期心電図所見					

搬送先医療機関の選定

①搬送先医療機関は、救急搬送病院リスト（別表）において対応可能な医療機関のうち、最も搬送時間が短いものを基本的に選定する。
　ただし、このリストで対応できない場合は、「広域災害・救急医療情報システム」など従前の受入可否情報を活用する。

②傷病者又は家族等からかかりつけ医療機関への搬送を依頼された場合は、傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、依頼された医療機関等を選定することもできる。
③傷病者の観察の結果、緊急度が高いと判断された場合は、救急搬送病院リスト（別表）からの選定を優先することとし、それ以外の場合は、地域で実施している病院群輪番制で当番となっている医療機関を優先する。
④傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、県外の医療機関への搬送が合理的と判断される場合は、県外への医療機関へ搬送できる。
　この場合においては、搬送先府県の実施基準を尊重するとともに、相互利用できる隣接県の「広域災害・救急医療情報システム」を活用する。
⑤合併症については、緊急度、重症度が高い症状を優先し、搬送医療機関を選定する。

2　特殊性が高く、搬送先医療機関が限定される疾患をチェックし、搬送先医療機関を選定

特殊性の高い疾患

対象傷病者	判断基準			搬送先医療機関の区分（別表）
妊婦	□ 心肺停止　□ 重篤な意識障害 □ 痙攣　□ 強い頭痛 □ 大量出血　□ 未受診（分娩進行中）	➡	□ 1項目以上該当	□ ハイリスク妊婦
			□ 該当なし	□ かかりつけ医療機関等
小児	□重篤な意識障害を伴う症状など *※小児の年齢は、原則15歳未満とするが、15歳未満であっても小児科以外で対応できる場合など、傷病者の状況に応じ、年齢にかかわらず対応することも可*	➡	□ 該当	□ 小児 1
			□ 該当なし	□ 小児 2
精神疾患	➡			□ 精神疾患

搬送先医療機関の選定

妊婦の搬送は、原則としてかかりつけ医へ連絡し指示を受ける。なお、搬送先の確保が困難となる休日や夜間において、かかりつけ医がいない場合や連絡がつかない場合は、産婦人科一次救急の当番医療機関へ連絡し指示を受ける。ただし、心肺停止など母胎の生命に影響を及ぼす症状である場合は、ハイリスク妊婦として、総合周産期母子医療センター（奈良県立医科大学附属病院）へ連絡し指示を受ける。

休日・夜間については、県内の主な小児科標榜病院の協力により実施されている小児科病院輪番体制（小児二次輪番）の当番病院を選定する。なお、心肺停止など重篤な症状の場合は救命救急センターを選定する。

※裏面＜別記1＞による

3－1　傷病者の意識レベル、バイタルサインから「緊急度」を判定

共通観察項目

観察項目	数値	判断基準			緊急度
ショックインデックス（脈拍数／収縮期血圧）		□ 1．3以上	➡	□ 該当	□ 超緊急
GCS		□ 8以下	➡	□ 1項目以上該当	□ 緊急
JCS		□ 30以上			
呼吸数		□ 10未満　または　30以上	➡	□ 2項目以上該当	□ 緊急
SpO2		□ 90%未満			
脈拍数（HR）		□ 50未満　または　120以上		□ 1項目該当	□ 準緊急
収縮期血圧（SBP）		□ 90mmHg未満			
体温		□ 34℃未満　または　40℃以上		□ 発熱のみ	□ 低緊急
SIRS		□ 体温　＞38℃または＜36℃ □ 脈拍数　＞90／分 □ 呼吸数　＞20／分	➡	□ 3項目該当＋重要疾患	□ 緊急
				□ 3項目該当	□ 準緊急
				□ 2項目該当＋重要疾患	
				□ 発熱のみ	□ 低緊急

「超緊急」・・・
　最も緊急度が高く、速やかに救命救急センター等への搬送が必要

「緊　急」・・・
　「超緊急」に準じて緊急度が高く、速やかに適切な対応ができる医療機関へ搬送が必要

「準緊急」・・・
　「緊急」に準じて、速やかに適切な対応ができる医療機関へ搬送が必要

「低緊急」・・・
　緊急性が低いと判断されるもの

3－2　「緊急度」を基礎として、疾患別の観察項目により、搬送先医療機関を選定

疾患別観察項目

	緊急度	観察項目		判断基準		搬送先医療機関の区分（別表）
意識障害・脳卒中	超緊急	□ ショックあり（共通観察項目のショックインデクス）		➡	□ 該当	□ 意識障害 1
	緊急	□ 瞳孔不同あり		➡	□ 1項目以上該当	□ 意識障害 2 □ 意識障害 4
		□ 両側瞳孔拡大				
		□ 上記及び下記なし		➡	□ 該当	□ 意識障害 5
	準緊急	□ 片麻痺（四肢または顔面）	低緊急	➡	□ 発症後3．5時間以内	□ 意識障害 2 □ 意識障害 3
		□ 失語症または構音障害				
		□ 失調症状			□ 発症後3．5時間以上	□ 意識障害 5
		□ 歩行障害				
		□ 視野障害				
		□ 経験したことがないような頭痛・嘔吐		➡	□ 該当	□ 意識障害 2 □ 意識障害 4

	緊急度	観察項目	判断基準		搬送先医療機関の区分（別表）
急性冠症候群・胸痛	超緊急 緊急 準緊急 低緊急	□ 20分以上持続する胸痛・絞扼痛	➡	□ 共通観察項目に関わらず1項目以上該当	□ 胸痛
		□ 心電図上でのST－Tの変化			
		□ 放散痛（肩・腕・上腹部・背部の激痛）			
		□ 随伴症状（チアノーゼ、冷汗、呼吸困難）＋既往歴（心疾患、糖尿病、高血圧）			
		□ 不整脈			

	緊急度	観察項目		判断基準		搬送先医療機関の区分（別表）
腹痛・吐下血	超緊急 緊急	□ ショック・意識障害あり（共通観察項目のｼｮｯｸｲﾝﾃﾞｯｸｽ、GCS・JCS）		➡	□ 該当	□ 腹痛 1
	緊急	□ バイタル異常あり（共通観察項目の呼吸数～体温）		➡	□ 該当	□ 腹痛 2
	準緊急 低緊急	□ 持続性の痛み	□ 多量吐下血	➡	□ 1項目以上該当	□ 腹痛 3 □ 腹痛 4 □ 腹痛 5
		□ 腹部膨張	□ 貧血			
		□ 頻回の嘔吐	□ 肝硬変の既往			
		□ 高度の脱水	□ 手術歴			
		□ 反跳痛	□ 激痛			

	緊急度	観察項目	判断基準		搬送先医療機関の区分（別表）
呼吸器疾患	超緊急	□ ショック・意識障害あり（共通観察項目のｼｮｯｸｲﾝﾃﾞｯｸｽ）	➡	□ 該当	□ 呼吸困難 1
	緊急 準緊急 低緊急	□ チアノーゼ　または　SpO_2　90％未満	➡	□ 1項目以上該当	□ 呼吸困難 2
		□ 著名な喘鳴			
		□ 明らかな喀血			
		□ 起座呼吸			
		□ 呼吸困難＋既往歴(呼吸器疾患)			

搬送先医療機関の選定

①搬送先医療機関は、救急搬送病院リスト（別表）において対応可能な医療機関のうち、最も搬送時間が短いものを基本的に選定する。ただし、このリストで対応できない場合は、「広域災害・救急医療情報システム」など従前の受入可否情報を活用する。

②傷病者又は家族等からかかりつけ医療機関への搬送を依頼された場合は、傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、依頼された医療機関等を選定することもできる。

③傷病者の観察の結果、緊急度が高いと判断された場合は、救急搬送病院リスト（別表）からの選定を優先することとし、それ以外の場合は、地域で実施している病院群輪番制で当番となっている医療機関を優先する。

④傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、県外の医療機関への搬送が合理的と判断される場合は、県外への医療機関へ搬送できる。この場合においては、搬送先府県の実施基準を尊重するとともに、相互利用できる隣接県の「広域災害・救急医療情報システム」を活用する。

⑤合併症については、緊急度、重症度が高い症状を優先し、搬送医療機関を選定する。

＜別記1＞
精神疾患に係る救急搬送･受入は、奈良県精神科救急体制に基づき行うものとする。なお、精神疾患以外の身体的合併症状を有する場合は、必要に応じその身体的治療を優先し、対応できる医療機関へ搬送するものとする。その際、消防機関は精神疾患のかかりつけ医療機関(ない場合は、精神科救急輪番制当番病院)にあらかじめ指示を仰ぐなど連携を密にし、身体的治療が終わったあとの搬送先医療機関(かかりつけ医療機関又は精神科救急輪番制当番病院)確保にも努めるものとし、身体的治療に対応した医療機関も、搬送先医療機関に症状の伝達等に努めるものとする。

4. 指令から伝達された傷病者情報を確認

かかりつけ医の有無	□あり　□なし
入院歴／既往歴等	□脳卒中　□心筋梗塞　□消化管出血　□がん □糖尿　□高血圧　□高脂血症　□透析　□免疫異常　□妊娠中　□その他(　　)

選定先医療機関への受入要請 ～ 現場出発

1 選定先医療機関に症状者の状況を伝達し、受入を要請

以下の事項を伝達する。特に、搬送先医療機関を選定する判断材料となった事項を優先的にわかりやすい言葉で伝達する。

①ファーストコール
- □ 傷病者の年齢、性別
- □ 主訴、主症状、受傷機転
- □ 観察結果(「選定シート」による緊急度、ショックインデックス、GCS、JCS、呼吸数、SPO2、脈拍数、収縮期血圧、体温等)
- □ 病歴、服用薬、かかりつけ医
- □ 応急処置内容(　　)
- □ 救急隊名、医療機関到着までの所要見込み(　　)
- □ その他必要と考えられる事項(妊娠の可能性、家族･付き添いの有無など)

②セカンドコール
- □ファーストコールで伝達できなかった事項
- □症状の変化
- □その他必要と考えられる事項

収容決定までに照会した医療機関と受入困難理由

医療機関名	照会時刻及び返答時刻	受入可否	受入困難理由	医療機関名	照会時刻及び返答時刻	受入可否	受入困難理由
1)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		2)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
3)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		4)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
5)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		6)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
7)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		8)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
9)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		10)	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	

受入困難理由:A手術中　B患者対応中　C専門外　D医師不在　E応答なし　F理由なし　G満床　H処置困難　I他の医療機関を示唆　J初診･かかりつけ医なし　K家族の付き添いなし　L他の医療機関へ搬送

※他の方法により情報が把握できる項目は、省略することも可とします。

病院到着 ～ 医師引継

本シートを病院へ引き継ぐ

医療機関記載用

医療機関診療情報

搬送先医療機関名			患者ID
検査	脳卒中疑い	画像診断	□CT　□MRI　□施行せず
	急性冠症候群疑い	心電図	□ST-T上昇　□ST－T低下　□心室性期外収縮　□幅広QRS(左脚ブロック)
		CAG	□有意狭窄　□スパスム　□有意な所見なし　□所見とれず
	腹痛	内視鏡	□施行せず　□施行 → □上部内視鏡　□下部内視鏡　□上部下部同時
	呼吸器疾患	画像診断	□胸部写真　□CT　□施行せず
		胸腔ドレナー	□施行せず　□施行
外来診断名	脳		□脳梗塞　□脳出血　□くも膜下出血　□慢性硬膜下出血　□その他
	意識障害		□中毒　□アルコール　□血糖異常　□その他
	循環器		□ST上昇AMI(STEMI)　□ST非上昇AMI(non-STEMI)　□不安定狭心症　□安定狭心症　□心不全　□不整脈　□急性大動脈解離　□その他
	消化器		臓器:□食道　□胃　□十二指腸　□胆のう　□膵臓 病名:□腹膜炎　□胃潰瘍　□十二指腸潰瘍　□急性胃炎　□虫垂炎　□腸閉塞　□大腸憩室炎　□腸捻転　□ヘルニア　□急性膵炎 □胆石／胆嚢炎　□その他
	呼吸器		□上気道炎(喉頭炎、咽頭炎を含む)　□気管支炎　□肺炎　□気胸　□喘息　□胸膜炎　□過換気症候群　□COPD　□その他
	その他		病名:
処置･治療手術	脳卒中	tPA	□適応なし　□判断不可能　□不明　□適応あり → □投与　□投与せず
		手術	□施行せず　□施行 → □クリップ　□コイル　□開頭血腫除去　□穿頭術　□その他(　　)
	急性冠症候群	PCI	□施行せず　□施行 → 再疎通 □あり　□なし
		循環補助	□IABP　□PCPS
	腹痛	止血術	□クリッピング　□エタノール　□EVL　□血管造影　□SBチューブ
		輸血	□施行せず　□施行
		手術	□施行せず　□施行
	呼吸器疾患	人工呼吸管理	□NPPV　□IPPV　□施行せず
	周産期	分娩	□なし　□あり → □正常分娩　□吸引分娩　□監視分娩　□帝王切開
		手術	□施行せず　□施行
外来転帰			□帰宅　□外来死亡　□入院　□同日転院(転院先:　　)
備考			

救急隊記載用

別紙2

消防本部名　　救急隊名（救急隊長名）　　（　　）

傷病者の観察及び搬送先選定シート（外因性疾患用）

入電～救急隊出発

指令から救急隊に伝達する項目

入電年月日	年　月　日	入電時刻	AM・PM　：	搬送ID			
発生場所				年齢（生年月日）	歳（M・T・S・H　年　月　日）	性別	□男　□女
主訴							

※指令から伝達された「主訴」により、怪我の場合は「外因性疾患用」を使用すること

現場到着 ～ 傷病者の観察 ～ 搬送先医療機関選定

1　特に緊急性が高く、一刻も早い搬送が必要な疾患をチェックし、搬送先医療機関を選定

心肺停止（CPA）

観察項目	判断基準			搬送先医療機関の区分（別表）
呼吸	□　気道閉塞 □　無呼吸 □　死戦期呼吸	➡	□　1項目以上該当	□　CPA　3
頸動脈脈拍	□　感知せず			
伝達事項	・目撃者：□あり　□なし　・AED使用：□あり　□なし　・バイスタンダー□あり　□なし　・初期心電図所見			

搬送先医療機関の選定

①搬送先医療機関は、救急搬送病院リスト（別表）において対応可能な医療機関のうち、最も搬送時間が短いものを基本的に選定する。
　ただし、このリストで対応できない場合は、「広域災害・救急医療情報システム」など従前の受入可否情報を活用する。

②傷病者又は家族等からかかりつけ医療機関への搬送を依頼された場合は、傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、依頼された医療機関等を選定することもできる。
③傷病者の観察の結果、緊急度が高いと判断された場合は、救急搬送病院リスト（別表）からの選定を優先することとし、それ以外の場合は、地域で実施している病院群輪番制で当番となっている医療機関を優先する。
④傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、県外の医療機関への搬送が合理的と判断される場合は、県外への医療機関へ搬送できる。
　この場合においては、搬送先府県の実施基準を尊重するとともに、相互利用できる隣接県の「広域災害・救急医療情報システム」を活用する。
⑤合併症については、緊急度、重症度が高い症状を優先し、搬送医療機関を選定する。

2－1　傷病者の意識レベル、バイタルサインから「緊急度」を判定

共通観察項目

観察項目	数値	判断基準			緊急度
ショックインデックス （脈拍数／収縮期血圧） 《小児は除く》		□　1．3以上	➡	□　該当	□　超緊急
GCS		□　8以下	➡	□　1項目以上該当	□　緊急
JCS		□　30以上			
呼吸数		□　10未満　または　30以上	➡	□　2項目以上該当	□　緊急
脈拍数（HR）		□　50未満　または　120以上		□　1項目該当	□　準緊急
収縮期血圧（SBP）《10歳以上》		□　90mmHg未満		□　該当なし	□　低緊急

「超緊急」・・・
　最も緊急度が高く、速やかに救命救急センター等への搬送が必要
「緊　急」・・・
　「超緊急」に準じて緊急度が高く、速やかに適切な対応ができる医療機関へ搬送が必要
「準緊急」・・・
　「緊急」に準じて、速やかに適切な対応ができる医療機関へ搬送が必要
「低緊急」・・・
　緊急性が低いと判断されるもの

2－2　「緊急度」を基礎として、疾患別の観察項目により、搬送先医療機関を選定

疾患別観察項目

	緊急度		観察項目	判断基準		搬送先医療機関の区分（別表）
重症外傷	超緊急	緊急		➡	□　該当	□　外傷　1
	準緊急	低緊急	□　開放性頭蓋陥没骨折	➡	□　1項目以上該当	
			□　顔面・頸部の高度な損傷			
			□　頸部・胸部の皮下気腫			
			□　外頸静脈の著しい怒張			
			□　胸部の動揺・フレイルチェスト			
			□　腹部膨隆・筋性防御			
			□　骨盤の動揺・下肢長差			
			□　頭頸部から鼠径部までの鋭的損傷			
			□　両大腿骨折			
			□　デグロービング損傷			
			□　四肢の切断			
			□　四肢の麻痺			
外傷部位	準緊急	低緊急	□　上記以外の体表外傷	➡	□　該当	□　外傷　2
			□　上記以外の頭部外傷	➡	□　該当	□　外傷　3
			□　上記以外の四肢外傷	➡	□　該当	□　外傷　4
			□　指趾切断の再接合	➡	□　該当	□　外傷　5
			□　上記以外の顔面外傷	➡	□　該当	□　外傷　6
			□　上記以外の胸部外傷	➡	□　該当	□　外傷　7
			□　上記以外の腹部外傷	➡	□　該当	□　外傷　8
			□　上記以外の陰部外傷	➡	□　該当	□　外傷　9
			□　上記以外の脊椎・背部損傷	➡	□　該当	□　外傷　10
			□　上記以外の多部位外傷	➡	□　該当	□　外傷　11
			□　上記以外の乳幼児軽症	➡	□　該当	□　外傷　12
熱傷	超緊急 緊急	準緊急 低緊急	□　15％以上の熱傷	➡	□　該当	□　外傷　13
			□　気道熱傷疑い		□　該当なし	□　外傷　14

搬送先医療機関の選定

①搬送先医療機関は、救急搬送病院リスト（別表）において対応可能な医療機関のうち、最も搬送時間が短いものを基本的に選定する。
　ただし、このリストで対応できない場合は、「広域災害・救急医療情報システム」など従前の受入可否情報を活用する。

②傷病者又は家族等からかかりつけ医療機関への搬送を依頼された場合は、傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、依頼された医療機関等を選定することもできる。

③傷病者の観察の結果、緊急度が高いと判断された場合は、救急搬送病院リスト（別表）からの選定を優先することとし、それ以外の場合は、地域で実施している病院群輪番制で当番となっている医療機関を優先する。

④傷病者の観察の結果及び搬送時間等を考慮し、県外の医療機関への搬送が合理的と判断される場合は、県外への医療機関へ搬送できる。
　この場合においては、搬送先府県の実施基準を尊重するとともに、相互利用できる隣接県の「広域災害・救急医療情報システム」を活用する。

⑤合併症については、緊急度、重症度が高い症状を優先し、搬送医療機関を選定する。

3. 指令から伝達された傷病者情報を確認

かかりつけ医の有無	□あり　□なし
入院歴／既往歴等	□脳卒中　□心筋梗塞　□消化管出血　□がん □糖尿　□高血圧　□高脂血症　□透析　□免疫異常　□妊娠中　□その他（　　）
部位	□頭部　□頸部　□顔面　□胸部　□腹部　□上肢　□下肢　□骨盤　□体表　□その他（　　）
原因・受傷機転	□交通事故　□自殺　□転落　□機械　□その他（　　）

選定先医療機関への受入要請　～　現場出発

1　選定先医療機関に症状者の状況を伝達し、受入を要請

以下の事項を伝達する。特に、搬送先医療機関を選定する判断材料となった事項を優先的にわかりやすい言葉で伝達する。

①ファーストコール
- □　傷病者の年齢、性別
- □　主訴、主症状、受傷機転
- □　観察結果（「選定シート」による緊急度、ショックインデックス、GCS、JCS、呼吸数、SPO2、脈拍数、収縮期血圧、体温等）
- □　病歴、服用薬、かかりつけ医
- □　応急処置内容（　　）
- □　救急隊名、医療機関到着までの所要見込み（　　）
- □　その他必要と考えられる事項（妊娠の可能性、家族・付き添いの有無など）

②セカンドコール
- □ファーストコールで伝達できなかった事項
- □症状の変化
- □その他必要と考えられる事項

収容決定までに照会した医療機関と受入困難理由

医療機関名	照会時刻及び返答時刻	受入可否	受入困難理由	医療機関名	照会時刻及び返答時刻	受入可否	受入困難理由
1）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		2）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
3）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		4）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
5）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		6）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
7）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		8）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	
9）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否		10）	照会時刻　時　分 返答時刻　時　分	可・否	

受入困難理由：A手術中　B患者対応中　C専門外　D医師不在　E応答なし　F理由なし　G満床　H処置困難　I他の医療機関を示唆　J初診・かかりつけ医なし　K家族の付き添いなし　L他の医療機関へ搬送

※他の方法により情報が把握できる項目は、省略することも可とします。

病院到着　～　医師引継

本シートを病院へ引き継ぐ

医療機関記載用

医療機関診療情報

搬送先医療機関名			患者ID	
検査	画像診断	□CT　□MRI　□施行せず		
外来診断名				
処置・治療・手術	IVR	□施行せず　□施行		
	輸血	□施行せず　□施行		
	手術	□施行せず　□施行		
外来転帰		□帰宅　□外来死亡　□入院　□同日転院（転院先：　　）		
備考				